

日本臨床微生物学会 症例報告の書き方

【症例報告を書く前に行うこと】

1. 症例報告で伝えたいメッセージが何かについて、共著者と共に確認する。メッセージがない症例報告は、単なる経過報告となり、査読者にもメッセージが伝わらない。既知のものとは異なる臨床経過・新しい診断法・新しい治療法・症例の稀少度などどこにポイントをおくかについても十分検討する。
2. 新規性や稀少度については、該当する症例が本当に新しいものか稀なものなのかについて、過去に発表された症例報告などを十分に確認しておく必要がある。十分な文献検索を行い報告がない、あるいは少ないことを確認する。
3. 臨床経過を図などに経時的にまとめて情報を整理する。学会発表などを行っていれば、使用した経過表の図を活用すると良い。臨床症状や経過についてまとめる際には、担当した医師に相談する。
4. 症例報告を行う患者さんから承諾を得るなど、倫理的な問題をクリアしておく。
5. 症例報告を書き始める前に、日本臨床微生物学会雑誌の症例報告の最新の投稿規程を確認する。最新号の症例報告を参考にして、投稿規程に沿って記載する。
6. 共著者とその順番については、事前に確認しておく。

【症例報告の書き方】

日本臨床微生物学会では、査読つき論文については、決められたフォーマットを用いて、以下の要領で作成すること。症例報告のテンプレートはホームページよりダウンロード可能である。

フォーマットに設定されたページレイアウトおよび書式は変更せずに記載すること。なお、フォーマットのデフォルト設定は以下の通りである。

- ☐ 余白：上下左右 30 mm
- ☐ 行間隔：2 行
- ☐ フォント：「全角かな」は MS 明朝または MS ゴシック、「半角英数字」および「記号」は Century または Times New Roman を推奨し、文字サイズを 12-14pt とする。要旨および本文中では、括弧は全角、句読点は全角の「，」および「。」を用いること。
- ☐ 必要に応じて上付き文字（cm²、1.0×10⁵ など）、下付き文字（H₂O など）、イタリック（*Pseudomonas aeruginosa* など）の使用は認める。ボールド（Bald）や下線（ ）は原則として認めない。
- ☐ ページ番号：フッターの中心にページ数で表示
- ☐ 行番号：左側にページごとに通し番号で表示

【論文の構成と各項目の記載方法】

論文の構成と各項目で記載すべき内容および順序について、項目順に以下に示す。

- (1) 表紙
 - ① 表題：症例報告で最も伝えたいポイントを含んだ表題とする。
 - ② ランニングタイトル：短くした表題（20 字以内）
 - ③ 著者名
 - ④ 所属機関名
 - ⑤ 所在地（所属機関住所）
 - ⑥ キーワード：文献検索に役立つ言葉として 5 単語以内
 - ⑦ 責任著者と連絡先：氏名、住所、電話番号、FAX 番号、公表可能であれば E-mail アドレス
 - ⑧ 別刷請求部数（実費精算、オンデマンド印刷）
- (2) 邦文要旨（400 字以内）

症例報告の内容を簡潔にまとめた内容とする。査読者は、まず要旨を読むので、わかりやすく記載すること。

(3) 序文

- ☐ 症例報告を行う必要があると考えた理由（新規性・稀少性）と関連する臨床的・検査診断上の問題点について記載する。必要な場合には先行文献を提示しつつ、この症例報告がどのような意義があるかについて記載するが、簡潔に記載することを心がける。

(4) 症例

- ① 患者：年齢・性別など
- ② 主訴
- ③ 患者背景：既往歴・生活歴・家族歴など，報告する内容と関係のある事項について簡潔に記載する。
- ④ 現病歴：身体所見・検査結果を簡潔に記載する（症例に関わった医師と相談して記載することが望ましい）。
- ⑤ 臨床経過：経時的にわかりやすく記載する。検査結果などは，経過に関連あるものを中心にまとめる。必要に応じて図表を活用する。図表に示した内容については，本文中には細かく記載しない。
- ⑥ 微生物学的検査：使用した検査機器や，培地，試薬等については，詳細に記載する。図表を活用して，わかりやすく記載する。
- ⑦ 検出された微生物による感染症であることを裏付ける成績を記載する。

(5) 考察

- ☐ 報告した症例と過去の報告とを比較検討する形で記載する。教科書的な記載は必要なく，あくまでも報告した症例を基にした考察を行う。序文で書かれている内容を繰り返さないように気をつける。
- ☐ 考察については，文献的根拠に基づいた記載を心がけ，エビデンスに基づかない著者の推測に関しては，基本的に記載しない。今後の検討課題がある場合は，簡潔に記載する。
- ☐ 最後に，症例の簡単なまとめを，1～2文で記載する。
- ☐ 論旨に一貫性があり，読みやすいよう工夫すること。

(6) 倫理的配慮

- ☐ 倫理的配慮については，症例提示本文中に忘れずに記載する。患者のプライバシー保護については，日本臨床微生物学会が定める「医学論文及び学術集会研究会発表時の症例報告を含む患者プライバシー保護に関する指針」(https://www.jscm.org/modules/aboutus/index.php?content_id=20)に則る。

例)「当院の個人情報保護方針に則り，症例報告の際の患者同意は〇〇〇となっている」など。

(7) 生成 AI および AI 支援技術の使用に関する申告

- ☐ 投稿規程 II-13) を参照すること。
- ☐ 原稿案の作成や確認に AI を用いた場合には謝辞の前に以下のような文章を加えること。
例) 原稿案を作成する段階において AI (ChatGPT3.5 など) を利用した。作成された文章は著者が全文を確認した上で適切な編集を行った。

(8) 謝辞

- ☐ 謝辞は，引用文献の前，すなわち論文の末尾の独立したセクションにまとめて記載する。ここでは，研究中に支援（言語面でのサポート，執筆支援，校正など）を提供してくれた個人を記載する。また，謝辞に記載される個人は，資金源および潜在的な利益相反を開示しなければならない。臨床研究の実施や論文の作成において，利益相反があるとみなされる個人から有料サービスを利用した場合には，それらの個人の役割についても記述する必要がある。

(9) 利益相反

- ☐ 投稿規程 I-3-6) および II-12 を参照すること。

(10) 引用文献

- ☐ 文献の記載は，最新の投稿規程に基づいて記載する。引用文献が正確に記載されているかどうかは査読のポイントとなる。
- ☐ 文献の記載方法は，「論文作成の手引き」に詳細に記載されているので参照すること。

(11) 図の説明

- ☐ 図の内容を簡潔に説明した文章を記載する。表題や説明文は，図の描かれた用紙には書き込まない。

(12) 英文要旨

- ☐ 邦文要旨を反映した内容とする。ネイティブチェックを受けることが望ましい。投稿規程 I-3-8) を参照すること。

(13) 図・表

- ☐ 図表自体は別のファイルとする。
- ☐ 図表は，正確，明瞭なものとする。
- ☐ 図表の書き方については「論文作成の手引き」に詳細に記載されているので参照すること。

【症例報告チェックリスト】

- ☐ 論文の表題は、伝えたい内容を正確に反映しているか？
- ☐ ランニングタイトルはあるか？
- ☐ 著者は全て症例報告に直接関わっているか？
- ☐ 著者名は間違いないか？（共著者に確認済か？）
- ☐ 著者の所属先は間違っていないか？（共著者に確認済か？）
- ☐ キーワードの内容と数は適切か？
- ☐ 邦文要旨は、症例報告の内容を正確に反映しているか？
- ☐ 序文は、科学的根拠を基に症例の新規性や稀少性について記載しているか？
- ☐ 症例の重要な臨床情報は記載されているか？
- ☐ 臨床情報の記載方法について、担当した医師に確認したか？
- ☐ 症例の重要な微生物学的検査方法は、正確に記載されているか？
- ☐ 考察は、適切に文献を引用し、根拠に基づいて記載されているか？
- ☐ 考察に、本症例報告の意義と今後の課題について記載されているか？
- ☐ 考察の最後に、本症例のまとめが簡潔に記載されているか？
- ☐ AIを用いた場合は「生成 AI および AI 支援技術の使用に関する申告」が記載されているか？
- ☐ 必要な謝辞は記載されているか？
- ☐ 著者全員の利益相反について記載されているか？
- ☐ 患者からの同意など倫理的配慮について記載されているか？
- ☐ 文献の引用方法は、投稿規程に基づいているか？
- ☐ 図の説明は記載されているか？
- ☐ 英文要旨は、邦文要旨を反映したものとなっているか？
- ☐ 英文要旨は、ネイティブチェックを受けているか？
- ☐ 図表は、正確で明瞭か？